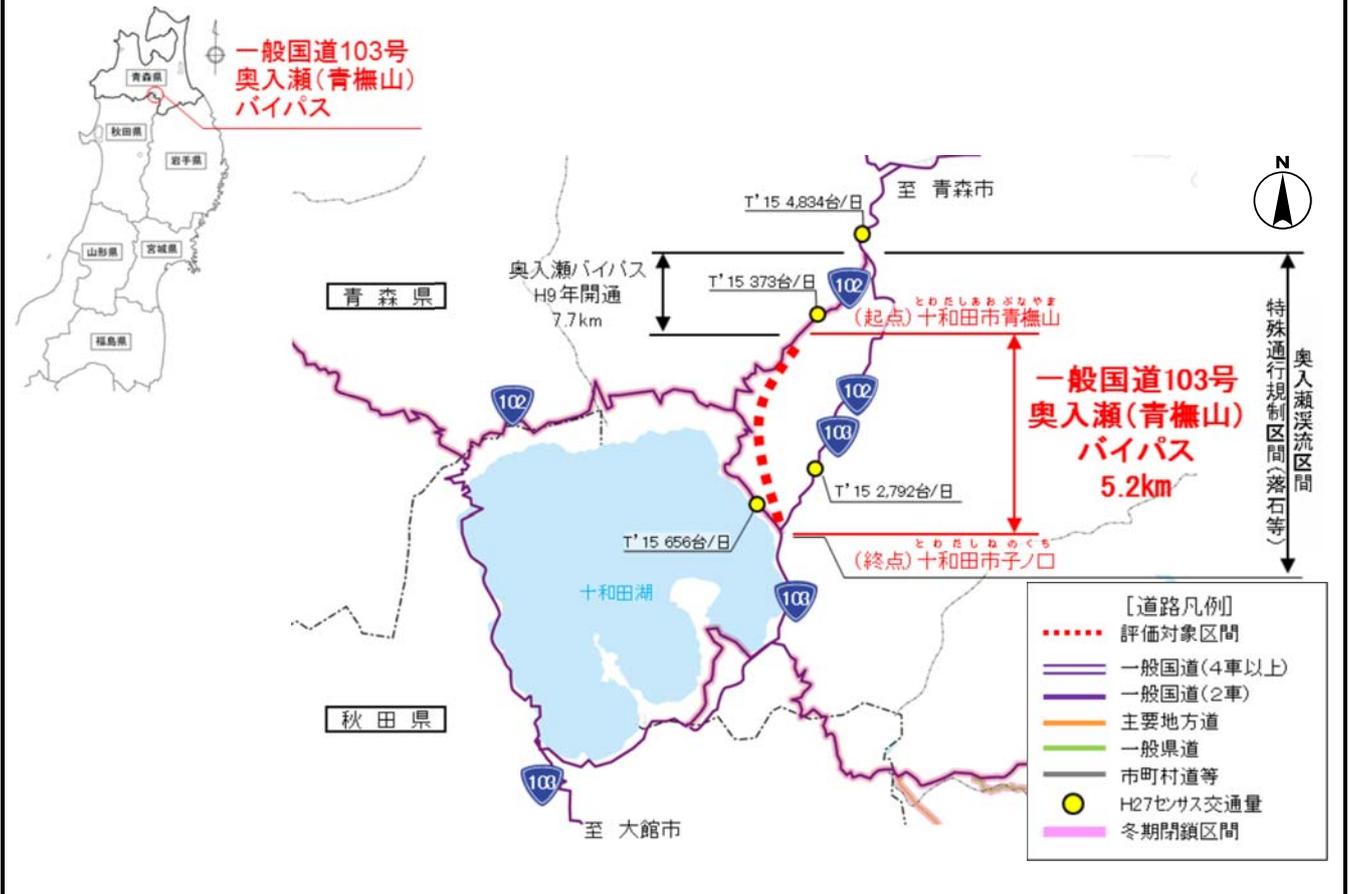


再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：村山 一弥

事業名：一般国道103号 <small>おいらせ あおぶなやま</small> 奥入瀬(青楓山)バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点：自：青森県十和田市青楓山 至：青森県十和田市子ノ口			延長	5.2 km
事業概要： <p>一般国道103号は青森県青森市を起点に十和田湖を經由し、秋田県大館市に至る延長約144.7kmの一般国道である。 奥入瀬(青楓山)バイパスは惣辺バイパスの一部を形成し、青森県十和田市青楓山～同市子ノ口に至る延長5.2km、2車線の自動車専用道路である。</p>				
H12年度事業化(青森県)		-	H29年度用地着手	
H26年度工事着手				
全体事業費		約230億円	事業進捗率	
計画交通量		3,200台/日	供用済延長	
		-	km	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) (残事業)	1.1 1.4	総費用 (残事業)/(事業全体) 169億円/200億円 事業費：168億円/198億円 維持管理費：1.5億円/1.5億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 230億円/230億円 走行時間短縮便益：195億円/195億円 走行経費減少便益：30億円/30億円 交通事故減少便益：5.1億円/5.1億円
基準年：平成29年				
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 【全体事業】交通量変動：B/C=1.06~1.3(交通量±10%) 事業費変動：B/C=1.06~1.3(事業費±10%) 事業期間変動：B/C=1.1~1.2(事業期間±20%)				
【残事業】B/C=1.2~1.5(交通量±10%) B/C=1.2~1.5(事業費±10%) B/C=1.3~1.4(事業期間±20%)				
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・渋滞損失時間：7.1万人・時間/年、渋滞損失削減率：約10割削減 ②災害への備え ・青森県緊急輸送道路ネットワーク計画において、国道103号が「第二次緊急輸送道路」に指定 ・現道区間の防災要対策箇所7箇所 ③生活環境の改善・保全 ・国立公園の特別保護地区の自然環境が保全 ・Max排出量5.5t/年、SPM排出量0.3t/年削減				
他5項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見 ○以下の団体等から、「奥入瀬(青楓山)バイパス」整備促進について要望あり。 ・青森県				
事業評価監視委員会の意見 対応方針(原案)どおり「事業継続」が妥当である				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成25年度に直轄権限代行、用地進捗率100%、事業進捗率14%(平成29年3月末時点)				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・平成34年度の供用を目指して事業を実施中				
施設の構造や工法の変更等 ○新技術(スリップフォーム)の導入等を行うことでコスト削減を図っている				
対応方針：事業継続				
対応方針決定の理由 災害時における緊急輸送道路確保、観光活性化、産業活動支援等のため、早期整備の必要性が高い。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。